

平成26年9月 広島市への災害復旧技術専門家派遣について

1. 概要

【期間】

平成26年9月10日（水）～12日（金）

【場所】

広島県広島市^{あさきたくかべひがし}安佐北区可部東地区、大林地区、^{みいり}三入南・^{とげ}桐原地区

【調査場所】

10日 普通河川 ^{だい}台川（可部東地区、L=1.6 km）

11日 普通河川 ^{たかや}高谷川（大林地区、L=3.3 km）

12日 普通河川 ^{なかおうじ}中応寺川（三入南・桐原地区、L=2.2 km）

【派遣専門家】

（社）全国防災協会 3名

【要請者】

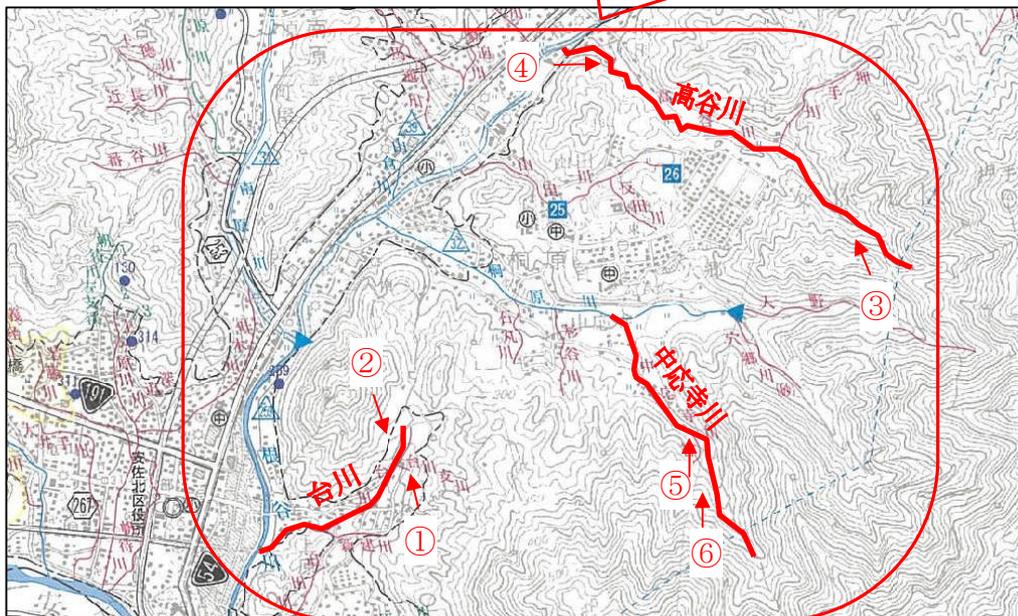
広島市下水道局河川課
（安佐北区農林建設部地域整備課）

【同行者】

国土交通省水管理・国土保全局防災課



調査箇所拡大図



2. 調査状況等

○普通河川 台川



①河川被災状況



②河川被災状況

○普通河川 高谷川



③河川被災状況



④河川被災状況

○普通河川 中応寺川



⑤河川被災状況



⑥河川被災状況

○会議内容（助言等とりまとめ）



会議状況(9/11：台川・高谷川)



会議状況(9/12：中応寺川・取りまとめ)

【普通河川 台川】

- ・ 別途上流部で土石流に対する対策が検討されるということで、当該河川の復旧は洪水への対策を検討すべき
- ・ 護岸崩壊や人家・農地浸食している区間については、河床安定・流速抑制のための落差工や河道線形を検討すべき
- ・ 河道の屈曲や河川断面不足で護岸崩壊している区間については、河川ボックス断面(市道安佐北3区96号線)の流下能力の検証を行った上で、断面拡大を含む改良を検討すべき
- ・ 現場の地形が変わる前に全線のビデオ撮影を行うことが望ましい。

【普通河川 高谷川】

- ・ 上・中・下流区間ごとに、被災原因を明確にし、適切な復旧工法を検討すべき
- ・ 護岸崩壊や人家・農地浸食、土砂埋塞で被災前の河道が不明な区間については、被災後のみお筋や河床状況等を踏まえて、河道線形の改良を検討すべき
- ・ 最下流部は土砂埋塞のみで護岸等の施設被害はないが、明らかに河川断面が不足していると考えられるため、必要な河積まで断面拡大を検討すべき
- ・ 下流部の埋塞土砂撤去は完了しているものの、上・中流域についても早急に対策を講じるべき
- ・ 人家に近い箇所について応急対策は実施されているものの、現地材(石)を活用するなど更なる応急対策を実施すべき
- ・ 取水施設等について関係機関と速やかに協議すべき

○会議内容（助言等とりまとめ）

【普通河川 中応寺川】

- ・ 護岸崩壊は水衝部に集中しており、隣接する人家・農地浸食に対し、人家や農地関係者と十分調整しながら、構造物として適切な復旧工法を検討すべき
- ・ 河道が土砂埋塞して人家が浸水・土砂流入した箇所については、今後人家へ被害を及ぼすおそれが大きいため、人家を守るために必要な範囲について護岸の新設及び河道線形の改良を検討すべき
- ・ 上流から土砂流出した天然河岸の区間については、人家への土砂流入を防ぐため、現地材（石）を活用した護岸（右岸）を設置すべき
- ・ 最上流部の市道については、河川としての復旧をしないことと、洪水の水位が路面より高い位置であることを踏まえ、被覆を考慮した復旧工法（コンクリート舗装、路肩のコンクリート被覆等）を検討すべき（道路災）

○助言に対して（今後の対策等）

【普通河川 台川】

（本復旧）

- ・ 再度災害防止の観点から、改良復旧事業の活用を検討し、早期復旧を目指す。

【普通河川 高谷川】

（応急対策）

- ・ 人家が近い被災箇所について、大型土のうの追加や現地材（石）利用による更なる応急対策を実施

（本復旧）

- ・ 再度災害防止の観点から、上・中・下流部の区間に分けて改良復旧事業の活用を検討し、早期復旧を目指す。

【普通河川 中応寺川】

（本復旧）

- ・ 上流部の土砂流出に対し河道を確保するとともに、下流部の局部護岸崩壊に対し復旧を行う。
- ・ 最上流部の道路路面上の土砂流出に対し舗装や路肩等の復旧を行う。（道路災）